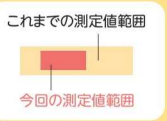
川内原子力発電所周辺の 環境放射線・温排水影響調査結果

県では，川内原子力発電所の運転による影響を調べるため，発電所の試運転開始前から，周辺地域の空間放射線量や，周辺で採取した野菜・水等に含まれる放射性物質の測定，温排水の影響を調査しています。

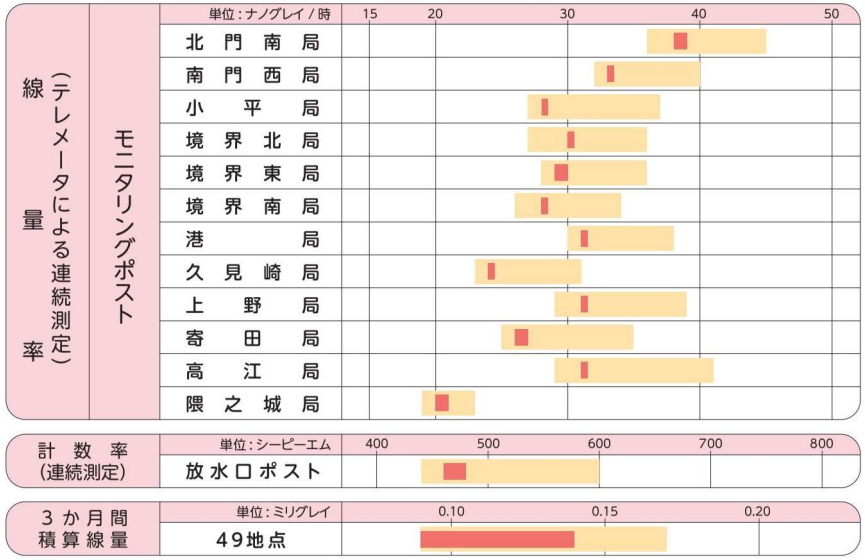
空間放射線量の測定
（令和7年1月～3月）

モニタリングポスト（42局※）の空間放射線量と，発電所の放水口ポスト（1局）における海水中の放射線量を，テレメータシステムを用いて常時監視しています。また，発電所周辺の49地点において，3か月間の積算線量の測定を行っています。

※県はその他，緊急時に備えた電子式線量計を64地点に設置しています。



今回の調査結果は，これまでの調査結果と比較し，異常は認められませんでした。



川内原子力発電所周辺の測定地点

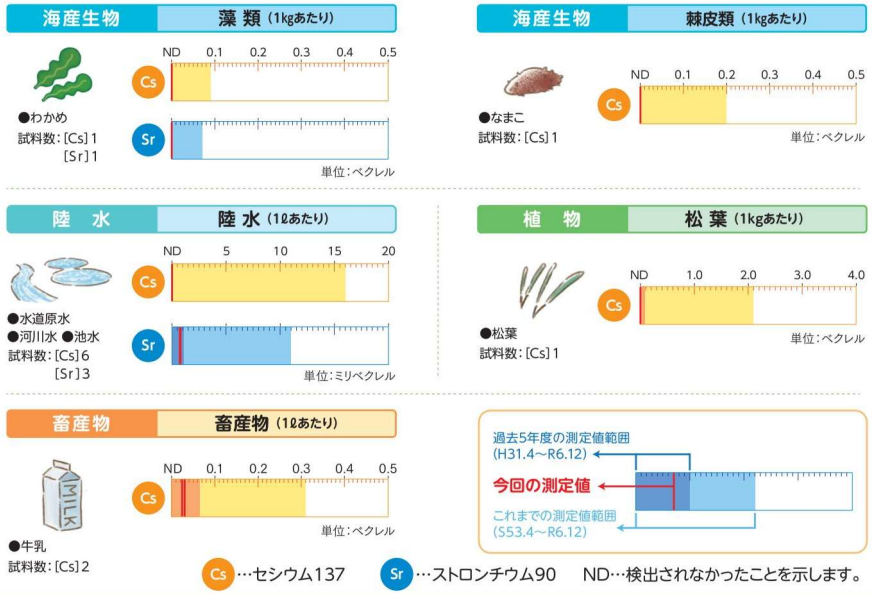
空間放射線量の測定結果については，リアルタイムで県のホームページで公表しています。

鹿児島県 環境放射線テレメータ 検索

環境試料の放射能分析
（令和7年1月～3月）

人工の放射性物質であり，環境における蓄積や被ばくの観点から重要なセシウム137，コバルト60，ストロンチウム90，ヨウ素131等について分析しています。今回は海洋試料8試料，陸上試料33試料，合計41試料を対象としています。

今回の調査結果は，これまでと同様，過去に実施された大気圏内核実験等による影響と考えられる，ごく微量のセシウム137，ストロンチウム90が検出されていますが，異常は認められませんでした。



温排水影響の調査
（令和6年度 冬季）

温排水とは，発電所内で蒸気の冷却に使用した後に排出される海水のことです。この温排水が周辺海域に与える影響を把握するために，温排水影響調査を定期的に実施しています。

マダイ・チダイの漁獲量が例年に比べ，少なくなりましたが，水温・塩分・流況は過去の変動の範囲内でした。

水温・塩分調査
水温計を船でひきながら，水深別に水平分布を調査しました。また，海面から海底までの鉛直分布も調査しました（令和7年3月1日）。

流況調査
海中に流速計を設置し，潮流の向きや速さを調査しました（令和7年2月15日～3月1日）。

主要魚類及び漁業実態調査
周辺海域におけるイワシ類（シラス）やマダイ・チダイの漁獲量を調査しました（令和6年1月～12月）。

※本調査は電源立地地域対策交付金にて実施しています。

今回の調査結果については，県のホームページに掲載しています。

鹿児島県 環境放射線・温排水影響調査結果 検索